

■松浦静山(清) 平戸藩主。民政重視の藩政、病気で致仕後學問に専念、高齢になって名隨筆「甲子夜話」を書き続けた。

まつらせいざん

大岡忠光没・1760＝ 江戸の藩邸で、名門8代平戸藩主松浦誠信の三男政信の_庶子に生まれる。
母が女中だったため不遇な上、病弱で成人を危ぶまれるほどであったが、
・・・・・・1762＝ 2歳：髪置の儀を終え
・・・・・・1763＝ 3歳：痘瘡も無事乗り越え、

蘭銭初輸入・1765＝ 5歳：袴儀、

・・・・・・1769＝ **9歳**：弓術の稽古始める。以後、晩年に至るまでさまざまな武術を修行し、免許や口伝を受けている。
・・・・・・1770＝10歳：父に嫡子ができなかったため、庶子から昇格し、
御蔭参流行・1771＝11歳：父が死去したため、祖父の世子となり、祖母の訓育によって育つ。
田沼意次老中1772＝12歳：

解体新書・・1774＝14歳：従五位下、壱岐守。_初めて將軍家治に拝謁。元服し、
黄表紙始・・1775＝15歳：祖父の致仕に伴って襲封。長崎で初めてヨーロッパ人に接し、平戸に入る。
_あたかも藩は慢性化した財政難にあったため、ただちに人事の刷新を断行し、藩政執行部を一新し、緊縮
經濟を確立し、財政収入の確保と計画的な処理を徹底するため、具体的な計画を立て、実行に移して、大きな成果をあげた。

ヰッ船蝦夷来 1778＝**18歳**：藩校維新館を設置し、教育の組織化に努め、
源内獄中死・1779＝19歳：豊作でゆとりができ、平戸と江戸に文庫を設ける。_江戸でオランダ商館長ティッツィングに会う。
・・・・・・1780＝20歳：初の子が誕生。この間、_官職を得ようと、田沼意次に積極的に賄賂を送るなどして運動、
・・・・・・1781＝21歳：_再び、江戸でティッツィングに会い、鐐を贈られる。
天明大飢饉始1782＝23歳：持病の積氣(胸か腹のけいれん痛)。維新館内に修史館を創設。
意知刺殺事件1784＝24歳：

田沼意次失脚1786＝26歳：
寛政改革始・1787＝**27歳**：

_城門外に薬局を創設して庶民の治療にあたらせるなど、文治政策を強力に進めた。
混浴禁止・・1791＝31歳：積氣と眩暈で平戸に帰藩できず。
ヲクスマン来日・1792＝32歳：_財政の安定を図るため「財用法鑑」を著す。
松平定信引退1793＝33歳：
ヲンダヅ 正月・1794＝34歳：持病回復せず帰藩を延期、
写楽・・・・・1795＝35歳：発病し江戸に留まる。_藩の会計法を改革し、条規を定めた「国用法典」を編む。
ポｰトﾝ来航・1796＝**36歳**：幕府から命じられた関東諸国の河川の修築費用を負担し、_この年から約15年をかけて、平戸城外の河川の
干潟を埋め立てて築地の造成を行う。藩財政が豊かになっていないなか、
古事記伝・・1798＝38歳：病で江戸に留まる。_なお官職求めて、湯島聖堂の再建に二万両の献金を申し出、
蝦夷地直轄始1799＝39歳：翌年が將軍家光の百五十回忌に当たると、率先して_日光参拝を願い出るなどして、運動続けるも、
伊能測量始・1800＝40歳：病深刻となり江戸での治療を願い出、1年早く参勤。
宣長没・・・・・1801＝41歳：病理由に元日東城せず。
一九膝栗毛始1802＝42歳：不調により帰藩せず。

_幕臣の高齢化も著しくなっかなかわず、
ヰヰノ来航・1804＝44歳：痔ろうや浮腫のため江戸に留まる。領内の飢饉に際して多くの米穀・金銭を放出し、租米を免じる。
青洲麻醉手術1805＝**45歳**：

ヰヰノ報復・1806＝46歳：***気持ちの整理つかないまま、病を理由に致仕し、江戸に移って静山と号する。以後、隠居を後悔しながら**
、学問に専念し、書斎楽歳を造り、修史のため書籍を集め、平戸版刊行などしながら気を紛らし、

隠居するまでに14人もの子ができていたが、
浮世風呂・・1809＝49歳：隠居後も、常に女性を側に置いて、子供ができ、

築地の完成後は、市街を区画して商人たちに与え、地子銭も20年間免除。

黒住教・・・・・1814＝**54歳**：

水野忠成老中1818＝58歳：

伊能図完成・1821＝61歳：***親友の林述斎に勧められ、隨筆「甲子夜話」の稿を起こし、**

シｰボㇰ来日・1823＝**63歳**：

鼠小僧磔・・1832＝**72歳**：この年処刑された鼠小僧次郎吉の話も登場するが、義賊とされたのはあくまでも大衆の話で、いわば殺人な
どできず頭で金をとった犯罪者という点で、現代のオレオレ(振り込め)詐欺にも対応するといえよう。
天保大飢饉始1833＝73歳：この年まで。実に20人の子を儲けている。

大塩平八郎乱1837＝77歳：

天保改革始・1841＝**81歳**：没した。書き続けた「甲子夜話」は28巻にもなる。
学芸関係の書約10、武芸関係の書約25の他、すぐれた詩歌集を遺し、川柳にも興味を持っていた。

「人づくり風土記(長崎)」, 氏家幹人「殿様と鼠小僧」, 「日本史を変えた人物200人」, 「この人どんな人」, 「没年日本史人物事典」, 平凡
社百科事典, 「江戸大名データファイル127人」,